

### 1 問題

\* 英文中の黄マーカーは、パラグラフのキーワードを示しています。

次の英文の内容を 70 ～ 80 字の日本語に要約せよ。句読点も字数に含める。 (25 点)

- 1 ① Among young Japanese today, the number of NEETs (those not in employment, education or training) and “freeters” (casual workers without regular employment) has sharply increased, **indicating** that many people have nothing to study or work for. I sometimes wonder whether Japanese **by nature** have much desire for **affluence**.  
～を示す **by nature** もともと；生来 **豊かさ**
- 5 ② Some rich Americans may enjoy the lifestyle of working weekdays in New York and then flying a private jet to Colorado to spend the weekend at a mountain villa, but a similar lifestyle is unheard of in Japan. Perhaps Japanese in general have little interest in a nomadic way of life, or find it **impracticable** in a small nation.  
実行不可能な
- ③ In Japan, there is little **correlation** between **income/consumption** and **happiness**. An **extravagant** lifestyle alone does not give people a sense of happiness.  
相関 収入や消費 幸福感 ぜいたくな
- 10 ④ In my view, happiness comes from a sense of social **involvement**, **commitment** and **sympathy**, all **deriving from** interaction with other people. In other words, happiness **stems from** feeling a sense of presence in a society.  
関与 責任 共感 deriving from ～ ～に由来する stem from ～ ～から起こる
- ⑤ Happiness also comes from the process of working hard to **accomplish a goal**. Having a definite goal and trying to accomplish it step by step requires concentration and gives people a reason for living and a sense of happiness. During Japan’s high-growth years, people were happy trying to achieve the national goal of an “**affluent** society.”  
目標を達成する 豊かな
- ⑥ Now, we seem to be tired of seeking “affluence” as defined by per capita GDP. In the 21st century, when we can eat all the food we want, we should seek “happiness” as a **goal** of life.  
目標

注：nomadic 遊牧民のようにあちこち旅する

(★およそ 260 words)

“If ‘affluence’ fails to please” by Takamitsu Sawa

(The Japan Times: Monday, April 3, 2006)

## 解答

「幸福とは、社会での存在感を得ることや、目標達成のために努力することで生じるものである。数字上の豊かさでなく、こうした幸福感を人生の目標とすべきだ。」(73字)

## 別解

「物質的に豊かになった今、ぜいたくな生活や国内総生産の数字上の豊かさでなく、社会での存在感や、目標達成のために努力することで得られる幸福を人生の目標とすべきだ。」(79字)

## 解説

## テーマと筆者の主張を確実につかむ

本文の構成としては、①「序論（問題提起）」→②「具体例1（アメリカの場合）」→③「具体例2（日本の場合）」→④⑤「本論（幸福感とは）」→⑥「結論」となっている。

## 第1パラグラフ

働いたり、勉強したりする明確な目的のないニートやフリーターの例に始まり、日本人は豊かさ（affluence）を強く欲しているのかどうか、という**問題提起**をしている。中ほどの many people have nothing to study or work for の部分は、to study or work for が不定詞の形容詞用法で、nothing を修飾している。study for ～（～のために勉強する）、work for ～（～のために働く）のように言えることから、この場合は study for nothing or work for nothing は「何のためにも勉強しないし、働かない」→「勉強したり働いたりする目的がない」ということになる。

## 第2パラグラフ

お金のある**アメリカ人のライフスタイルの具体例**を挙げ、そのようなライフスタイルは、日本ではめったにないというのがこのパラグラフの要旨。ℓ.7の構文を確認しておこう。

Perhaps Japanese <in general>

S

have little interest <in a nomadic way of life>.

V<sub>1</sub> O<sub>1</sub>

or find it impracticable <in a small nation>.

V<sub>2</sub> O<sub>2</sub>C<sub>2</sub>

in general は「一般の」の意味。find O C は「OをCと思う」の意味。ここの it は a nomadic way of life を指す。したがって、後半は「(日本人は)遊牧民のような生活を、小さな国では実行不可能だと思う」の意味である。

### 第3パラグラフ

日本では、ただぜいたくな生活だけでは人々は幸福感を得ることはないと述べている。ℓ.10の *alone* は、ここでは *only* の意味に近く、「ただ～だけ」という意味を持つ。

### 第4パラグラフ

第3パラグラフの記述を受けて、それならば日本における幸福感とは何であるのかについて、**筆者の考え**が表明されている。その箇所は、ℓ.12～13… *happiness stems from feeling a sense of presence in a society* (幸福とはある社会の中に存在感を得ることから起こるのだ) である。このあたりまで読むと、「幸福」(**happiness**)が**本文のキーワード**であることがわかってくるであろう。

### 第5パラグラフ

このパラグラフの第1文 *Happiness also comes from the process of working hard to accomplish a goal.* (幸福とはまた、目標を達成するために懸命に努力する過程からも得られる。)が、このパラグラフの要旨である。第4パラグラフで述べた**筆者の幸福観にさらに補足**していることが *also* から読み取れる。

### 第6パラグラフ

*In the 21st century … we should seek “happiness” as a goal of life.* (21世紀には、人生の目標として「幸福」を探し求めるべきである。)という**主張**が述べられている。

#### ■要約答案作成上のポイント

本文では字数を考慮して、具体例を述べている第1、第2パラグラフは含めなくてよく、着目すべきなのは、第4パラグラフ以降の記述である。**In my view** というフレーズからこれ以降に**筆者の考えを表すことがわかるので、内容を読み解くと、筆者の幸福観とは「社会の中に存在感を得ること、目標を達成するために懸命に努力すること」とある**ので、ここを中心に解答を作成する。さらに21世紀には筆者の述べているような幸福を探し求めることが、人生の目標となるべきだという一文で締めくくればよい。

#### ⚠ Warning

*stem from* ～「～から起こる」の *stem* は名詞では「茎；幹；軸」や、「茎状のもの（パイプの柄やワイングラスの脚など）」の意がある。

*e.g. the stem of a wineglass* (ワイングラスの脚)

## 東大の求めるレベル

要約問題では、繰り返し現れるキーワードをつかみながら、要約の中核となりそうな表現に目をつける。今回は字数の制約もあり、具体例に当たる第1～2パラグラフの内容は含めず、**第4パラグラフ以降にある「幸福感は～というものだ」といった明確な表現を中心にまとめればよい。In my view（私の意見では）のような筆者の意見を示すフレーズにも注目しよう。**

なお、具体例だからといって、そのパラグラフの内容が要約には不要だとすぐには排除しないように注意。例えば、2011年の1(A)は「科学教育のあり方」がテーマであったが、大半が具体例で要約に含めるべき内容も具体例から探し出す問題であった。東大の要約は素材によってまとめ方もさまざまなので、論説文だけでなくエッセイにも当たるなど演習を重ねておくこと。

## 全 訳

- ① 今日の日本の若者の間では、ニート（職業をもたず、教育、訓練も受けていない人々）と「フリーター」（定職につかない臨時雇いの労働者）の数が、急激に増加している。それは多くの人が勉強したり、働いたりする目的がないことを示している。日本人は生来豊かさを求める強い気持ちがあるのだろうか、と私は時として考える。
- ② 金持ちのアメリカ人の一部は、平日はニューヨークで働き、週末には山荘で過ごすために自分の飛行機でコロラドへ飛ぶというライフスタイルを楽しむかもしれない。しかしこれと似たようなライフスタイルは日本では聞いたことがない。恐らく、一般の日本人は、あちこち旅する遊牧民のような生活にはほとんど興味がないのか、小さな国ではそんなことは実行不可能だと思うのであろう。
- ③ 日本では、収入や消費と、幸福感の間にはほとんど相関関係がない。ぜいたくなライフスタイルだけでは、人々は幸福感を得ることはないのである。
- ④ 私の意見では、幸福感は社会に参加すること、義務を負うこと、そして共感することからくるものであり、それらはすべて、他者との関わりに由来するものだ。言い換えれば、幸福とはある社会の中に存在感を得ることから生じるのだ。
- ⑤ 幸福はまた、目標を達成するために懸命に努力する過程からも得られる。明確な目標を持ち、それを一步一步達成しようとすることは集中力を必要とし、人々に生きる理由と、幸福感を与える。日本の高度成長期には、人々は「豊かな社会」という国家的目標を達成しようとして、幸福であったのだ。
- ⑥ 現在我々は、1人当たりの国内総生産で定義されるような「豊かさ」を求めることにうんざりしているように思われる。食べたいものは何でも食べられる21世紀には、人生の目標として「幸福」を探し求めるべきである。

◀ ¶① 日本人には豊かさを求める気持ちがあるのか。

◀ ¶② 金持ちのアメリカ人のような生活様式は日本にはない。

◀ ¶③ 「ぜいたく」＝「幸福」ではない。

◀ ¶④ 幸福とは社会の中に存在感を得ることだ。

◀ ¶⑤ 幸福は目標達成のために努力する過程からも得られる。

◀ ¶⑥ 経済的豊かさを得た今、幸福を人生の目標とすべき。